

暖地型牧草の紹介と栽培時の注意点

1. はじめに

近年、府県では、大型機械の普及によりロールベールやラッピングサイレージの利用が多くなってきております。秋冬作であればイタリアンライグラスやエンバク、春夏作であればスーダングラスやソルガムのような、比較的発芽・初期生育が良く、収量を確保できる草種が選定されています。

同様に、細茎で乾燥しやすく機械での刈取が容易に行える暖地型牧草を利用される方も増えて来ております。一方で、暖地型牧草は草種が様々で、特性も多様であるため、それぞれの草種・品種にあった栽培管理を行う必要があり、ポイントをしっかりと押さえておかないと失敗することも少なくありません。そこで今回は、ロールベールサイレージや乾草に調整しやすい主要な草種、九州など西日本を中心とした、栽培・利用方法をご紹介します。

2. 主要草種・品種紹介

(1) テフグラス「ST-1」【新発売】

播種量：1～2 kg/10a

昨年から販売開始となった「ST-1」(写真2)はこれまでの暖地型牧草に無い以下の特性を持ち合わせています。

- ① 播種適期が3月中旬～9月下旬までと幅広く、暖地型の草種としては比較的低温でも発芽、生育が安定しています。(写真1、表1)
- ② 生育が早く、30～40日で収穫適期の穂孕み期(出穂直前)、40～50日で出穂期を迎えるため、短期間での栽培利用が可能です。
- ③ 耐湿性に優れており、湿田や水田転換畑でも栽培が可能で、出芽以降に一時的に冠水するような条件でも枯れることはありません。

以上の特性以外にも、粗タンパク含有量が高く良質な粗飼料生産が可能です。また、茎葉が非常に細く、刈取後の乾燥が早いため、近年の不安定な気象

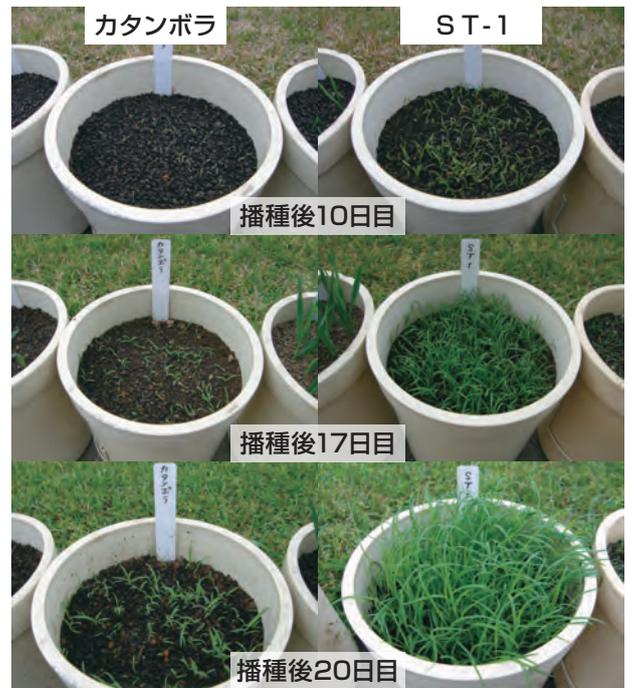


写真1 早春播種の初期生育の差 (3月17日播種)

表1 ST-1、カタンボラの播種期別発芽日数とその差 (弊社宮崎研究農場)

播種期	出芽までの日数					
	2015			2016		
	ST-1	カタンボラ	差	ST-1	カタンボラ	差
3月中旬	5日	10日	5日	7日	10日	3日
4月中旬	6日	17日	11日	6日	9日	3日
5月中旬	6日	10日	4日	3日	4日	1日

ST-1はカタンボラよりも出芽が早く、早春の比較的低い温度でも出芽が安定している

表2 「ST-1」混播利用例

ST-1:1.0kg10a + ローズグラス(コート種子):4.0～5.0kg/10a	… ST-1が生育初期の雑草を抑制し、ローズグラスの再生率も収穫
ST-1:1.0kg10a + 青葉ミレット :3.0kg/10a	… 水田転換畑でより多収を狙う
ST-1:1.0kg10a + なつ乾草 :3.0kg/10a	… 畑地で乾草多収を狙う

条件の中でも比較的水分調整が容易に行えます。

栽培上の注意点は、出穂までの期間が短いため、収量性が高くないこと、また、収穫時の機械による踏圧で再生不良となるため1回刈が基本となります。



写真2 「ST-1」の草姿

収量性については、混播利用により補うことが可能です。混播利用例について（表2）に掲載していますのでご活用ください。

また、「ST-1」は飼料作物としての利用以外にも、緑肥利用や草勢栽培利用、カバークロップとしての利用なども可能です。ご興味のある方は、弊社農場または営業所にお気軽にお問い合わせください。

（2）ローズグラス「カタンボラ」・「カリーデ」

播種量：コート種子…5～6 kg/10a

生種子…2～3 kg/10a

（※カリーデはコート種子のみ）

細葉・細茎で乾きやすく、収穫時の機械による踏圧に強く再生利用可能なため多収が期待できる暖地型牧草の代表的な草種です。また、耐湿性は中程度で暖地型牧草の中では比較的湿害に強く土壌適応性が高い草種ですので、ある程度排水性の良い水田転換畑でも栽培が可能です。

栽培上の注意点は、収穫適期を過ぎると特に倒伏しやすく、牛の嗜好性が悪くなる欠点がありますので、カタンボラは播種後50～60日、カリーデは播種後60～70日の穂孕み期（穂が出る直前）を目安に収穫いただくことをお勧めいたします。

また、生種子では種子が軽く風で飛ばされやすいため、播きムラに注意が必要ですが、コート種子を利用することによって作業性や均一性を改善することができます。

（3）飼料用ヒエ「青葉ミレット」

播種量：3～4 kg/10a（畑地）

4～5 kg/10a（転作田・水田）

青葉ミレット（写真3）は、耐湿性が飼料作物の中で最も強く、水田転換畑や湿田での栽培に適した



写真3 「青葉ミレット」の草姿

品種です。茎がやや太めですので青刈りやロールペールサイレージ利用に向いており、嗜好性は良好です。

栽培上の注意点は、日長の影響を受けやすく、播種時期が遅くなるほど出穂が早くなる特性がありますので、播種から収穫までの生育期間が短くなってしまい、草丈が短くなり収量が低くなる傾向があります。播種は7月までを目安に行い8月以降の播種はお避けください。

（4）セタリア属「なつ乾草」

播種量：3～4 kg/10a

細茎で乾燥が早く、直立型の草姿で倒伏に強い（写真4、5）。また、発芽、初期生育が早く雑草との競合に強いことが特徴です。また、前述しました「青葉ミレット」と違い日長に左右されず、遅播きでも収量が下がりにくい品種で、播種適期の5月中旬～8月下旬まで安定した収量が期待できます。

栽培上の注意点は、湿害に弱く水田転換畑や排水性の悪い畑での栽培、または発芽直後の大雨などによる一時的な冠水条件でも生育不良となり大きく減収するおそれがありますので、排水性の良い畑でのご利用をお勧めします。

3. 栽培時の注意点

（1）播種準備・播種時の注意点

暖地型牧草はトウモロコシやソルガムと比べて種



写真4 「なつ乾草」 直立型の草姿



写真5 「なつ乾草」 茎が細く乾草利用しやすい

が小さいため、土壌と種子の活着を良くするために、播種前の耕起作業（砕土、整地）は丁寧に行ってください。特に水田転換畑などの排水性の悪い畑では、砕土が十分に行えない場合がありますのでロータリーを2回がけするなどして、整地を十分に行ってください。

播種時期については、「ST-1」を除いて、平均気温が20℃になった頃が播種適期です。西南暖地では5月中旬を目安に播種してください。

播種方法は、種子サイズが小さく軽いものが多いので、播きムラが出ないように注意しましょう。ローズグラスやギニアグラスには、コート加工した種子があります。生種子より重くなっているので播きやすく、色も白く目立つので種の落ち具合も視認しやすいため、播きムラを防ぐことができます。

覆土については、スーダングラスや、エンバク、ライムギ、オオムギなど比較的種子サイズの大きな草種と同様に行うと、播種深度が深すぎるため発芽不良を起こしてしまいます。暖地型牧草の播種深度の目安は1cmですので、ロータリーの浅がけや、回転速度を遅くするなどして覆土が厚くならないようご注意ください。



「播種後ローラー2回がけ」
土壌水分が安定し発芽良好

「播種後の鎮圧なし」
土壌水分が安定せず発芽遅れ、
発芽ムラが見られる



「ロータリーで覆土（2cm以上）」
播種深度が深くなり、発芽出来ない

写真6 播種後の覆土、鎮圧作業の違いによる発芽の差

播種後は、発芽、定着を良くするために必ず鎮圧を行ってください。土壌が乾燥している場合の播種は極力避けて頂きたいですが、どうしても播種を行う場合は、ローラーを2回がけするなどして、しっかりと鎮圧を行うことで土壌の乾燥が軽減され、発芽、生育が比較的安定します。（写真6）

（2）刈取時の注意点

収穫の目安は、いずれの草種についても穂孕み期から出穂始めまでに行ってください。刈遅れた場合、茎の硬化により嗜好性の低下をまねくほか、倒伏しやすくなり、収量の低下や、収穫時の土砂混入による試料品質の低下を引き起こす恐れがあります。またローズグラスなどの再生利用する草種では再生不良の原因となりますので注意してください。

4. おわりに

自給飼料の中でトウモロコシは最も重要な飼料作物の一つであり、トウモロコシをメインに自給飼料を生産されている方も多くいらっしゃるかと思います。しかしここ数年を振り返ってみますと、気候の変化が目まぐるしく、突発的な豪雨や台風による倒伏被害に加え、生育初期の立枯れが大きな問題となっております。これらの対策の一つとして暖地型牧草を栽培することで、リスク分散、自給飼料の確保に繋がると考えております。本稿を御一読いただいた皆様の自給飼料確保に、少しでもお役立て頂ければ幸いです。